

「山地防災」に対する関心の向上を目指して



地域名：栃木県
パートナー名：栃木県環境森林部森林整備課

4班 コミュニティデザイン学科 西山和希 北條百萌
建築都市デザイン学科 神山颯斗 村上美鈴
社会基盤デザイン学科 藤嶋涼

背景

日本では元々**山地災害**が多く、とりわけ栃木県は山が多いため、年間を通して多くの被害が発生している。その一方で、山地防災に関わる人々は年々減少しており、**人材不足**が続いていくことが予想されている。加えて山間部に対する知識を持つ人も減少しており、更なる被害が発生する恐れがある。そんな中、昨年度の調査結果において、**山間部の人**は山地災害や山地防災について、一定以上の関心や知識があるとわかった。しかし、**都市部の人**は**関心が薄く**、知識が浅いことが懸念される。そのような人が山地災害の理解を深めて、防災意識を高める必要がある。

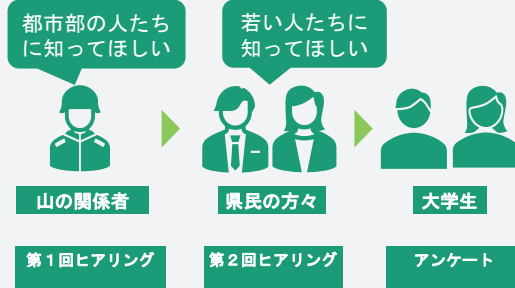


写真1 日光市岩崎上空

写真2 日光市岩崎付近

目的

2回にわたり実施したヒアリング調査から、山の知識や経験が豊富な山間部に住む人々ではなく、今まで山地災害に関わることのなかった**都市部の人**、その中でもとりわけ**若い人**たちに山地災害の恐ろしさと山地防災の大切さを知ってもらうことで**山地防災の関心を高める**とわかった。そこで、実際に被害に遭った場所の映像やインタビューなどから、山地災害に対する危険性を訴えかける**動画を制作**し公開することで、若い世代の多くの人が自分事と捉えてもらい、関心を向上させることを目的とする。



方法

山地災害の認知度や知りたいことなどについて、防災関係者や県民の方々に**アンケート兼ヒアリング**調査を実施し、その結果をもとに、実際の被害、インタビュー、災害時の備え等についての内容を3分程度にまとめた動画を制作する。その動画を宇都宮大学生に見てもらい、山地災害についてどのように印象が変化したかを調査する**フィードバックアンケート**を実施し、動画視聴前から山地災害についての**印象がどのように変化したのか**を調査することで、情報発信の方法として有用であるかどうか、また今後どのように山地災害の危険性を訴えていけばよいのかなどについて検討することとした。

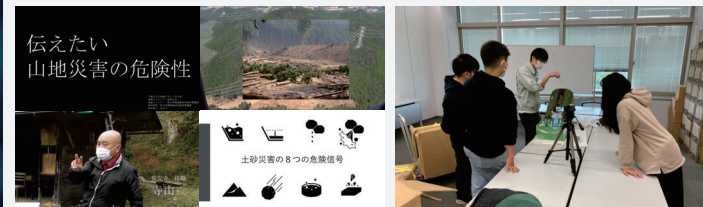


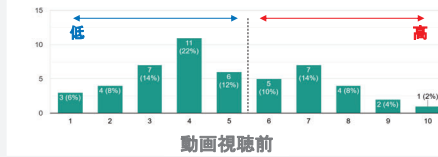
写真3 動画構成

写真4 動画素材撮影の様子

分析結果

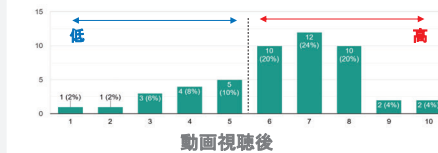
動画視聴後のフィードバックアンケートには、**50人**の宇都宮大学生から回答を得ることができた。まず動画を見る前の山地災害への関心についてアンケートを取ったところ下の表の結果となった。50人中31人が10段階中5以下の回答をしていた。しかし動画を視聴後に同じアンケートに答えてもらうと、50人中36人の人が6以上の回答をしていた。この結果から、この動画を見ることによって、一定の人は関心を持ってくれたことがわかる。関心を持ってもらった理由として、「日本では他人事ではないと感じたから」や、「山地防災に関心を持っていないと大変な目に遭う」など自分事として考えてくれている意見があった。しかし、「山間地域に住む予定がない」などの意見もあり、実際に自分が関係しないことへの関心をどのようにして持たせるかが課題となる。

・山地防災への関心について、10段階で教えていただきたいです。(50件の回答)



10段階評価のうち、関心が低いと答えた人が全体の**62%**

・動画を見て、山地防災に対する関心は持ちましたか？10段階から回答をお願いします。(50件の回答)

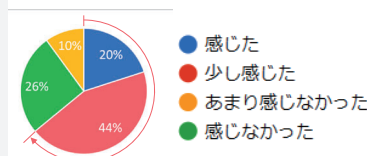


10段階評価のうち、関心を持ったと答えた人が全体の**72%**

次に、山地災害を身近に感じましたかという質問に対しては下の円グラフの結果となった。身近に感じた人の理由として「日本に山が多いから」や、「自分の住んでいる地域に山が多いから」という意見が多かった。しかし、身近に感じなかった人の理由は、「山が自分の家の近くにないから」という意見が多かった。

⑥ 山地災害を身近に感じましたか？

50件の回答



4段階評価のうち、身近に感じたと答えた人が全体の**64%**

この結果から、この動画を見る前と見た後でアンケートに協力した人の山地災害への関心は高まっていたが、実際に自分が住んでいる地域によって自分事と考える人も多くいた。

提案

今回動画を宇都宮大学の学生に見せたことによって、動画媒体によって山地災害に対する**一定程度の関心向上が可能である**ということがわかった。しかし、自分事として捉えてもらうことはあまりできていなかった。これらの結果を踏まえて、**動画の改良**をすることを考えた。

具体的には、以下の3つを提案する。

1. 動画内で**被災時の例**を紹介する
2. **シミュレーション動画**の作成
3. **VR動画**などで災害体験をしてもらう



今回作成した動画は、こちらから視聴できます。

1については、動画内で都市部の人々がどのような時に山地災害に見舞われるのかについていくつかの例を紹介することで、事態を想像しやすくすることができる。2については、もし山地災害が起きたらどのようなようになるのかを予測して、模型やソフトを用いて映像を作成することで、具体的な被害を知らせることができる。3については、いくつかの県でもおこなっていることで、土砂災害等の映像をVR動画として見てもらうことで、動画を見てもらう以上に山地災害を自分事としてとらえやすくすることができる。考える。